

2007年暮らし向き調査結果

当センターでは、県内の消費行動を探るため南都銀行 32 か店の来店客（700 名）を対象に、「暮らし向きアンケート調査」を実施し、その結果を取りまとめましたのでお知らせします。

《要 約》

①暮らし向き動向

1 年前（2006 年）と比べた現在の暮らし向きDI（※）は $\Delta 24.3$ で、1 年前（ $\Delta 26.5$ ）に比べ 2.2 ポイント上昇している。また、今後（1 年間）の暮らし向きDI は $\Delta 28.8$ で現在よりも 4.5 ポイント悪くなる予想となっている。

（※）DI とは、アンケート結果の分散程度を指数化したもので、「良くなった」+「やや良くなった」から（「悪くなった」+「やや悪くなった」）を差し引きした指数をいう（以下同様）。

②消費支出動向と増減理由等

現在の消費支出DI は 35.7 となり、1 年前と比べて 0.5 ポイント上昇した。年代別では、40 代のDI（45.3）が最も高くなっていった。消費支出が増加した理由は「出費がかさなった」（73.5%）が最も多く、増加要因となった費目は「飲食料品費」（34.9%）が最も多かった。

今後 1 年間の消費支出DI は、マイナスに転じ $\Delta 36.9$ となった。消費支出DI が最も低いのは 29 歳以下（ $\Delta 53.8$ ）。最も高いのは 40 代（ $\Delta 22.6$ ）であった。

③貯蓄目的

「老後の備え」、「病気や不時の災害への備え」が、前回同様高い水準となっている。

④今後の主な購入予定商品

上位から「国内旅行」（27.0%）、「プラズマ・液晶テレビ」（21.6%）、「婦人衣料」（21.4%）となった。前回よりも購入予定が増えたのは「娯楽費」（6.3 ポイント上昇）、「子供衣料」（6.1 ポイント上昇）など 8 項目であった。

⑤消費行動

買物をする際に重視する項目は「価格」（60.3%）が最も高く、次いで「品質」（47.8%）、「機能性」（39.7%）、「デザイン」（24.5%）となった。

⑥サービス・レジャー等の支出

1 年前と比べた現在の支出DI は「補助教育費」（3.5）が最も高く、「外食費」（ $\Delta 2.0$ ）、「教養娯楽費」（ $\Delta 8.7$ ）の順になり、すべての項目で支出DI は上昇した。

⑦買い物・レジャー等の支出

今後の買い物やレジャーの支出DI は $\Delta 23.5$ となり、前回より 2.0 ポイント低下した。「減らす」理由としては、「世帯の収入が減った」（40.3%）が最も多い。前回よりも増えている項目は、「進学・出産・転居等特別な支出がある」（4.6 ポイント上昇）と「ローン負担が重い」（4.8 ポイント上昇）などであった。

1. 暮らし向き動向

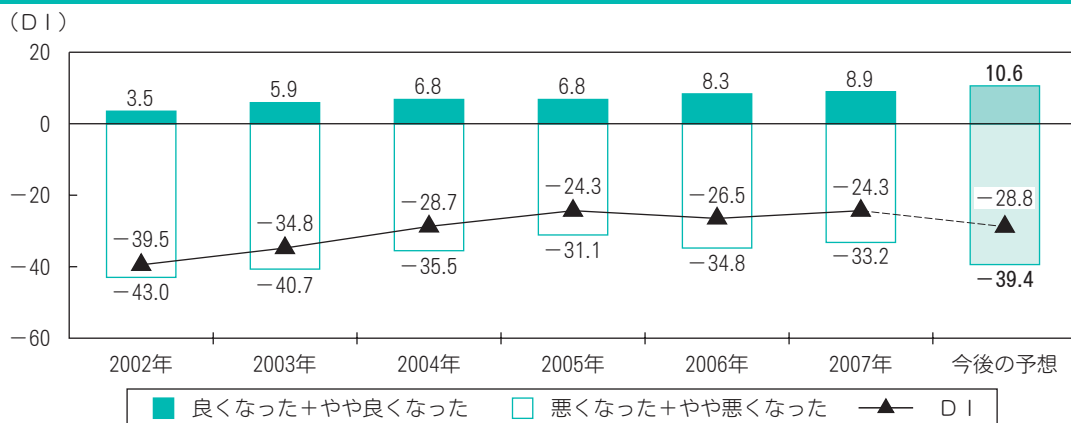
<現在>

1年前（2006年）と比べた全体の暮らし向きを見ると、暮らし向きDIは $\Delta 24.3$ となり、前回よりも2.2ポイント上昇し、暮らし向き感は良くなっている。

年代別に見ると、30代の暮らし向きDIが $\Delta 12.2$ と最も高く、前回より9.0ポイント上昇した。

一方、暮らし向きDIが最も低いのは60歳以上の $\Delta 30.1$ であったが、前回よりは3.0ポイント上昇している。次いで40代が $\Delta 29.9$ 、50代が $\Delta 26.0$ となり、どちらの年代もDIは前回より低下した。29歳以下のDIは $\Delta 12.8$ で、暮らし向き感は、若年層のほうが良かった。

現在の暮らし向きDI（1年前に比べ）



<今後1年間（2008年）>

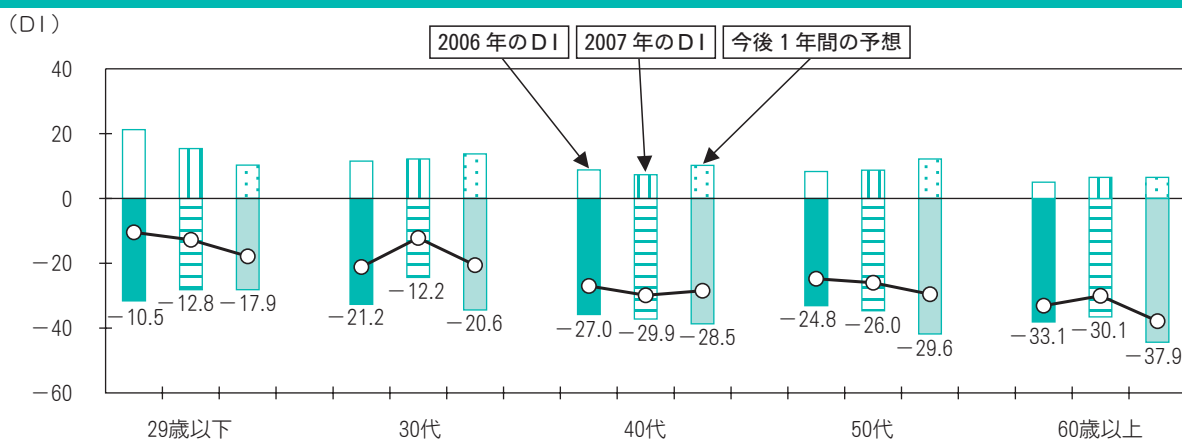
今後1年間の暮らし向き予想としては、全体の暮らし向きDIが $\Delta 28.8$ と現在よりもさらに4.5ポイント悪くなると予想している。

年代別に見ると、暮らし向きが現在より良くなると答えたのは40代（1.4ポイント上昇）だけであった。

そのほかの年代は、現在よりも悪くなると答えた。29歳以下ではDIが5.1ポイント低下。30代は8.4ポイント低下、50代3.6ポイント低下、60歳以上7.8ポイント低下であった。

今後の暮らし向き予想は、多くの年代で先行きに不透明感が残る結果となった。

年代別暮らし向きDI



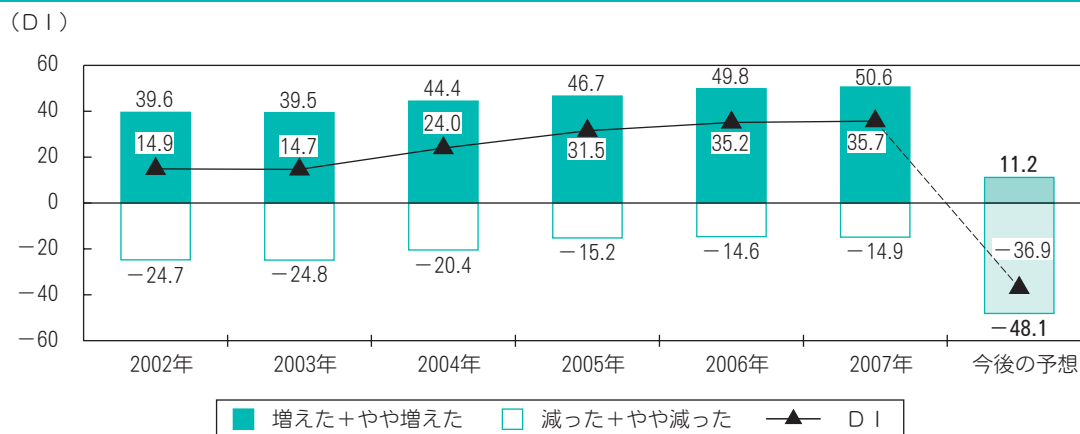
2. 消費支出動向

<現在>

1年前（2006年）と比べた全体の消費支出は、「増えた」と答えた人の割合が50.6%（前回より0.8ポイント上昇）で、「減った」が14.9%（同0.3ポイント低下）であった。消費支出DI（以下消費DIという）は35.7で、前回より0.5ポイント上昇した。

年代別の消費DIは、29歳以下と50代で前回よりも上昇し、その他の年代は低下した。消費DIが高かったのは40代（45.3）、次は30代（41.2）であった。一方、最も低いのは29歳以下（17.9）であった。

現在の消費支出DI（1年前に比べ）

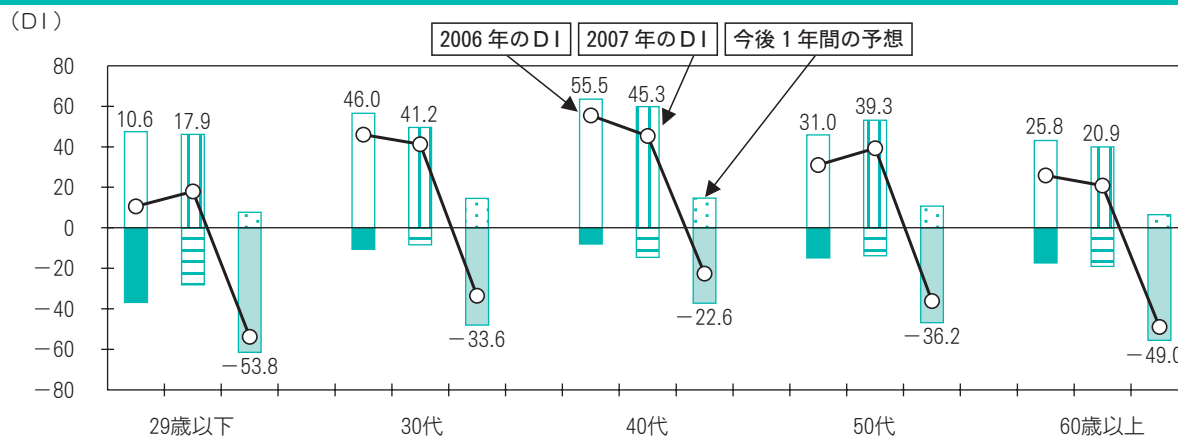


<今後1年間（2008年）>

今後1年間の消費DIの予想は、マイナスに転じて△36.9になり、現在の消費DIからは大きく低下した。これから先の消費支出を減らそうと考える人が48.1%あり、先行きに不安を感じている人が多いことがうかがえる。

年代別では、29歳以下△53.8と、60歳以上△49.0の消費DIが低くなっている。この2つの年代では、今後消費を減らすと答えた人の割合が29歳以下（61.5）、60歳以上（55.6）とその他の年代よりも24.3~7.5ポイントほど高くなっていた。

年代別消費支出DI



3. 消費支出の増減理由等

(1) 消費支出の増加理由および増加費目

1年前（2006年）と比べた消費支出が「増加した」と答えた347人を対象に、その理由をたずねた結果、「出費がかさなった」が73.5%で最も多かった。

支出が増加した費目（複数回答）は「飲食料品費」が34.9%で最も多く、続いて「教育費」（34.6%）、「交際費」（25.1%）の順となった。

年代別に増加した費目を比べてみると、29歳以下は「飲食料品」（55.6%）が多かった。30代、40代ではいずれも「教育費」の割合が最も多かったが、特に40代（63.4%）が突出していた。30代は「教育費」（46.2%）に続いて「飲食料品」（43.1%）が多かった。50代は「交際費」（33.7%）と「飲食料品」（32.7%）が多く、60歳以上では「飲食料品」（32.8%）、「保健医療費」（29.5%）、「交際費」（27.9%）が多かった。

(2) 消費支出の減少理由および減少費目

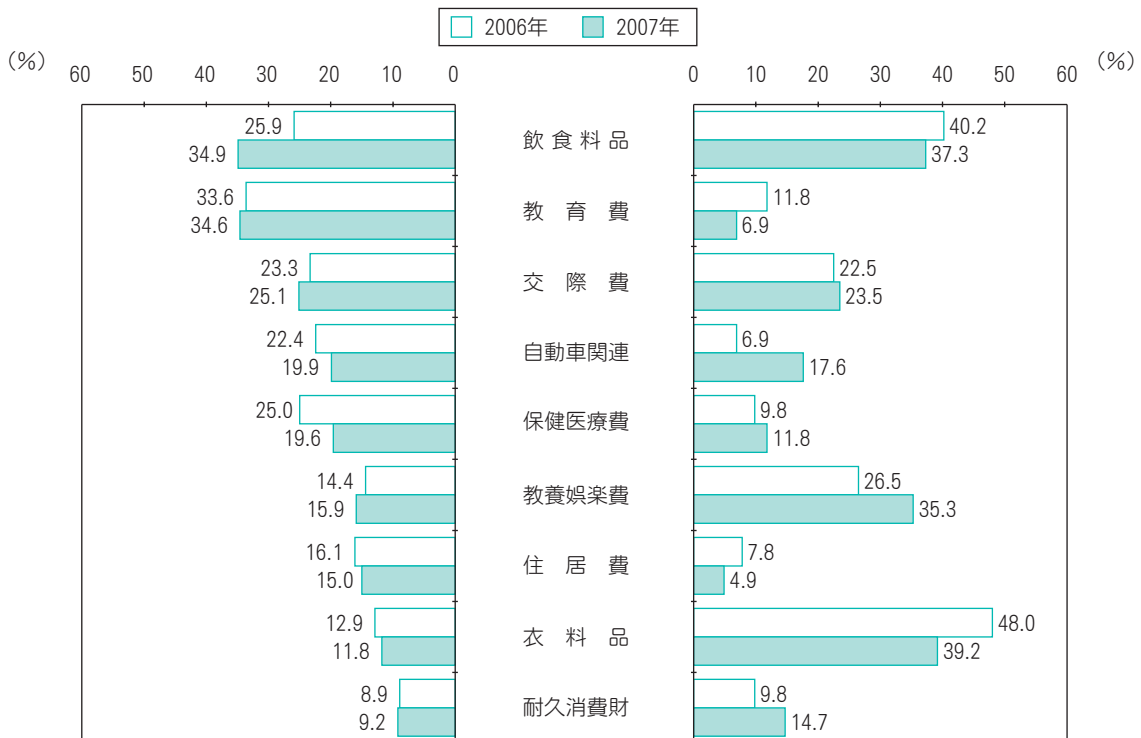
1年前（2006年）と比べた消費支出が「減少した」と答えた102人を対象に、その理由をたずねた結果、「節約した」（46.1%）が最も多く、次に「収入が減少した」（32.4%）となった。前回最も多かった「収入が減少した」は前回より8.8ポイント減少した。

支出が減少した費目（複数回答）は前回と同様「衣料品」が39.2%で最も多く、続いて「飲食料品」（37.3%）、「教養娯楽費」（35.3%）の順となった。「自動車関連」（17.6%）は、前回よりも10.7ポイント多くなり支出を減らした人の割合が多い。

年代別に最も減少した費目を比べてみると、29歳以下では「飲食料品」（72.7%）、30代は「衣料品」（72.7%）。40代は「教養娯楽費」と「衣料品」（ともに45.0%）、50代「飲食料品」（51.9%）、60歳以上では「衣料品」と「耐久消費財」（ともに27.6%）が多かった。

支出が増加した費目（複数回答）

支出が減少した費目（複数回答）



4. 貯蓄目的（複数回答）

<全体>

今後1年間の貯蓄額については「増やす」(35.1%)、「減らす」(15.3%)となり、貯蓄DIは19.8で前回よりも5.7ポイント上昇した。

年代別に、今後1年間の貯蓄DIを比べると、29歳以下の貯蓄DIが最も高く64.1と、そのほかの年代と比較して2倍ほどの割合になった。次に高いのは、30代(30.5)であった。40代(16.1)、50代(18.4)、60歳以上(4.6)と中高年層は低かった。

貯蓄の目的では、「老後の備え」(47.5%)が最も多かった。次には「病気や不時の災害への備え」(36.6%)、「教育資金」(32.2%)が続き、順番もその割合も前回とほとんど同じ傾向であった。

<年代別>

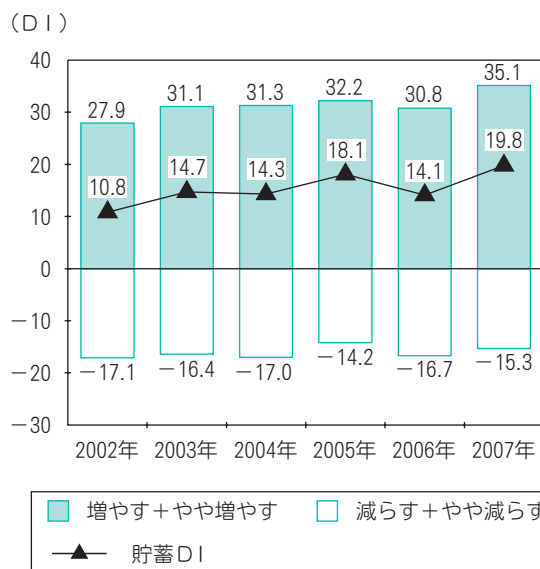
年代別に貯蓄目的を比べてみると、29歳以下、30代、40代では「教育資金」が最も多かった。しかし、2位以下の項目は29歳以下では「住宅資金」と「レジャー資金」(ともに30.8)が多く、30代、40代では「老後の備え」(33.6、45.3)となっていた。

29歳以下をのぞくすべての年代で「老後の備え」が貯蓄の目的として挙がっており、年金の先行き不安や、介護費用に対する備えの必要性を強く持っている様子が見られる。

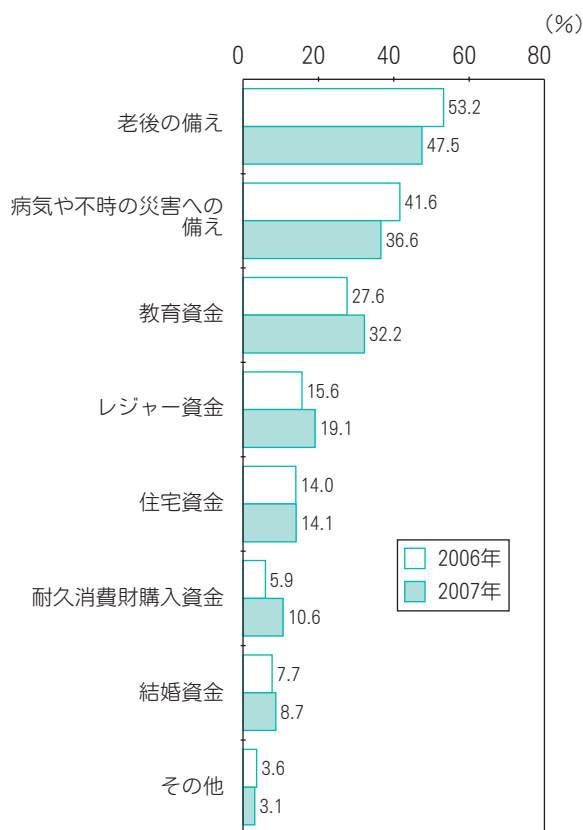
年代別貯蓄の目的の上位2項目

	第1位	第2位
29歳以下	教育資金 (46.2%)	住宅資金 レジャー資金 (30.8%)
30代	教育資金 (61.1%)	老後の備え (33.6%)
40代	教育資金 (59.9%)	老後の備え (45.3%)
50代	老後の備え (55.6%)	不時の備え (37.8%)
60歳以上	老後の備え (61.4%)	不時の備え (42.5%)

今後1年間の貯蓄DI



貯蓄の目的（複数回答）

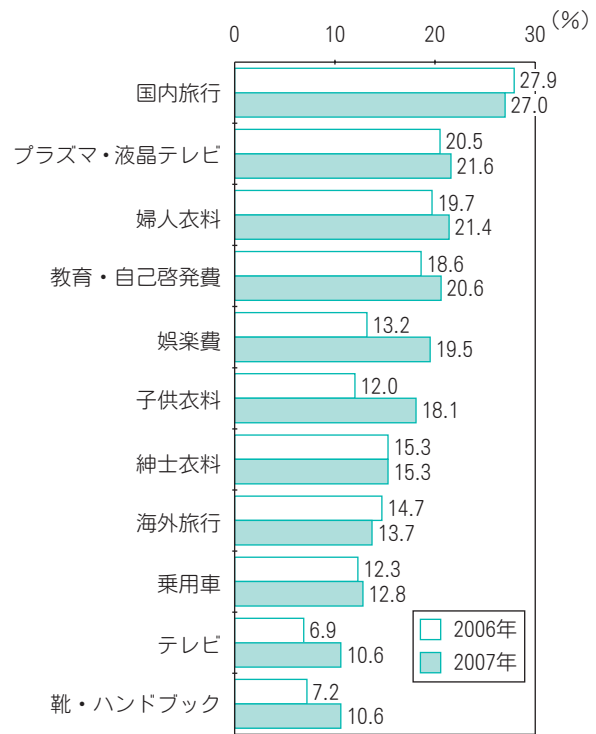


5. 今後の主な購入予定商品（複数回答）

購入予定商品で最も多いのは「国内旅行」（27.0％）、続いて「プラズマ・液晶テレビ」（21.6％）、「婦人衣料」（21.4％）の順となった。前回よりも、購入予定者が増えたのは「娯楽費」（6.3ポイント上昇）、「子供用衣料」（6.1ポイント上昇）、「テレビ」（3.7ポイント上昇）、「靴・ハンドバッグ」（3.4ポイント上昇）など8項目であった。年代別の特徴を見てみると、29歳以下と30代は「子供用衣料」が最も多かった。40代は「教育・自己啓発費」が多く、50代、60歳以上はともに「国内旅行」が多かった。

既婚・未婚別では、既婚者は「国内旅行」が多く、最も多かった60歳以上では37.7%を占めた。未婚者では「娯楽費」が多かった。特に多いのは29歳以下（46.2%）、次の50代は「娯楽費」（33.9%）と、「国内旅行」（32.2%）、「海外旅行」（32.2%）の3項目が多くなっていた。

今後の主な購入予定商品
（上位10品目；複数回答）



購入予定商品（複数回答）

購入予定商品	合計	年 代 別					既 婚 ・ 未 婚 別		
		29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	既 婚	未 婚	
耐久消費財	冷暖房器具・エアコン	7.6	7.7	6.1	8.0	7.1	9.8	7.9	6.0
	テレビ	10.6	2.6	5.3	10.9	12.2	13.7	10.9	8.1
	プラズマ・液晶テレビ	21.6	12.8	16.0	23.4	24.0	24.2	22.4	17.4
	DVDレコーダー	4.2	7.7	3.8	2.9	5.1	3.3	3.4	6.7
	パソコン・周辺機器	9.5	15.4	7.6	8.0	13.3	6.5	7.5	15.4
	デジタルカメラ・ビデオカメラ	5.5	12.8	6.9	5.1	4.1	5.2	5.3	6.0
	食器洗い乾燥機	2.0	5.1	1.5	0.7	2.6	2.6	1.8	2.0
	乗用車	12.8	23.1	9.2	16.1	13.3	9.8	11.1	18.1
衣料品・サバイブス	靴・ハンドバッグ	10.6	10.3	9.9	8.0	14.3	9.2	9.1	18.1
	紳士物衣料	15.3	20.5	20.6	14.6	16.8	9.2	16.6	13.4
	婦人物衣料	21.4	25.6	26.0	19.0	21.4	19.0	22.0	21.5
	子供用衣料	18.1	30.8	45.8	26.3	5.1	2.6	23.2	4.0
	家具・インテリア用品	10.3	20.5	12.2	8.0	9.7	10.5	10.1	12.8
	スポーツ・レジャー用品	8.3	2.6	7.6	10.9	8.2	9.2	7.7	11.4
	国内旅行	27.0	20.5	27.5	18.2	29.6	35.9	27.3	24.8
	海外旅行	13.7	12.8	10.7	7.3	20.4	15.0	12.3	18.1
その他	教育・自己啓発費	20.6	23.1	25.2	32.1	17.3	11.8	23.8	12.8
	娯楽費	19.5	23.1	27.5	16.1	19.4	17.6	18.4	26.2
その他	5.1	2.6	3.1	5.1	7.1	4.6	6.3	2.0	

6. 消費行動（複数回答）

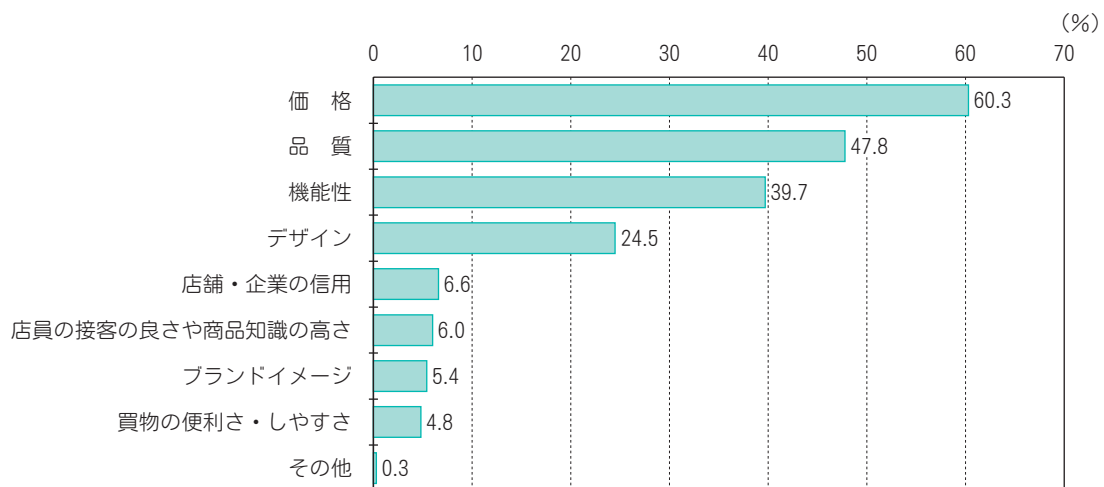
洋服や家電製品を購入する際に重視する項目で最も多いのは「価格」（60.3%）。次いで「品質」（47.8%）、「機能性」（39.7%）「デザイン」（24.5%）となった。

それぞれの項目について年代別別にみると、「デザイン」を重視するのは29歳以下（38.5%）が最も多かった。「価格」は60歳以上を除くすべての年代で最も重視されており、30代（71.8%）では7割を超えた。「品質」を最も重視したのは60歳以上であった。「機能性」はほとんどの年代で3番目に重視されていた。

「ブランドイメージ」は全体で2番目に少ない項目で30代（3.8%）が最も少なかった。「店舗・企業の信用」を重視したのは50代（10.2%）であった。「買物の便利さ・しやすさ」は50代を除くすべての年代で最も少ない項目であった。「店員の接客の良さ・商品知識の高さ」は60歳以上（8.5%）が多かった。

既婚・未婚別では、既婚者が「価格」「品質」「機能性」の順で重視したのに対し、未婚者では「デザイン」が三番目に重視された。

買物をする際の重視項目（複数回答）



(%)

	合 計	年 代 別					既 婚 ・ 未 婚 別	
		29歳以下	30代	40代	50代	60歳以上	既 婚	未 婚
デ ザ イ ン	24.5	38.5	29.8	22.6	26.5	14.4	20.0	40.3
価 格	60.3	69.2	71.8	64.2	58.7	52.3	59.0	69.1
品 質	47.8	33.3	45.0	48.2	49.5	56.2	49.3	43.0
機 能 性	39.7	38.5	40.5	42.3	37.8	41.8	42.0	33.6
ブ ラ ン ド イ メ ー ジ	5.4	7.7	3.8	4.4	6.1	5.2	5.1	7.4
店 舗 ・ 企 業 の 信 用	6.6	7.7	4.6	5.8	10.2	5.2	6.9	4.7
買 物 の 便 利 さ ・ し や す さ	4.8	2.6	0.8	3.6	7.1	5.2	4.8	2.7
店 員 の 接 客 ・ 商 品 知 識	6.0	7.7	5.3	3.6	5.6	8.5	6.3	4.0
そ の 他	0.3	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.2	0.0

(%)

7. サービス・レジャー等の支出

<現在>

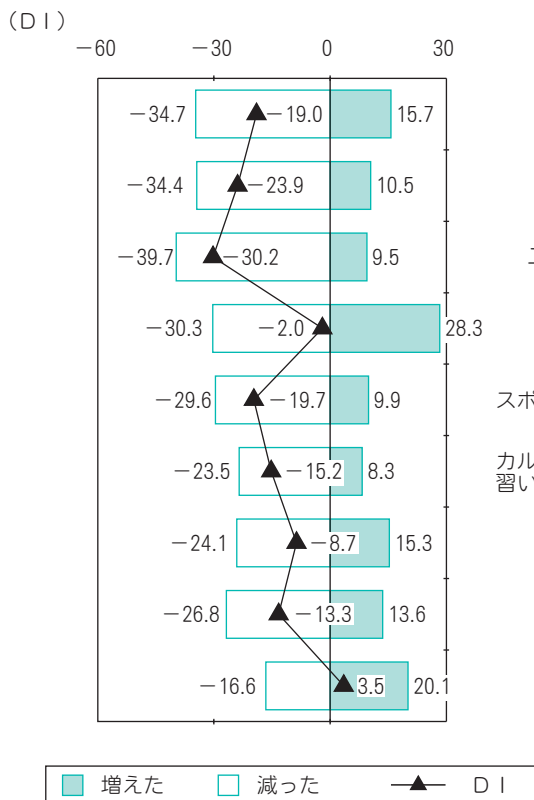
1年前（2006年）と比べたサービス・レジャーに関する支出DIは、「補助教育費」（3.5）が最も高い。続いて「外食費」（△2.0）、「教養娯楽費」（△8.7）となった。前回と比べるとすべての項目で支出DIが上昇した。支出DIが最も上昇したのは「外食費」（8.6ポイント上昇）、続いて「その他娯楽費」（5.9ポイント上昇）、「補助教育費」（4.6ポイント上昇）、「教養娯楽費用」（4.4ポイント上昇）であった。「補助教育費」の支出DIは、40代（35.0）が飛び抜けて多かった。「外食費」は50代（3.6）と30代（2.3）が多くなっていった。「教養娯楽費」では50代（1.5）のDIだけがプラスになり、その他の年代はマイナスであった。

<今後1年間（2008年）>

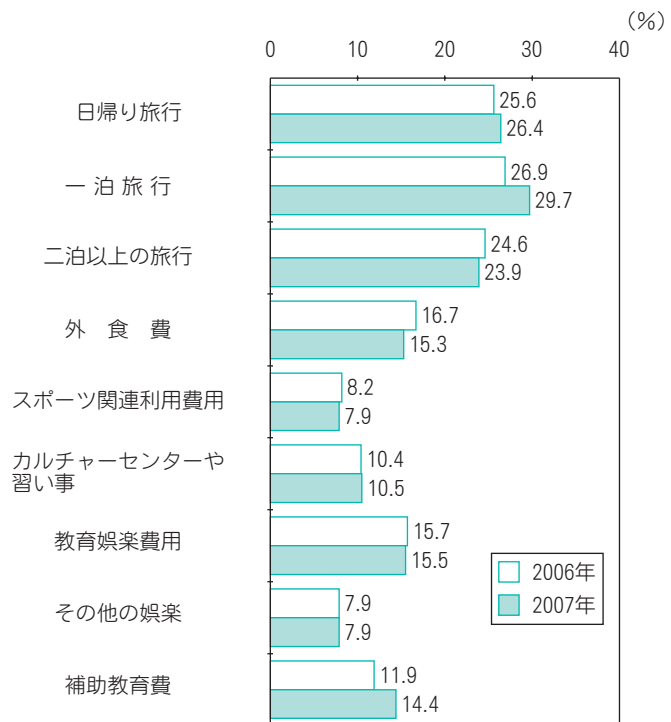
今後1年間に、サービス・レジャー等の支出を考えているもの（複数回答）としては、多い順に「一泊旅行」（29.7%）、「日帰り旅行」（26.4%）、「二泊以上の旅行」（23.9%）であった。「一泊旅行」は前回よりも2.8ポイント上昇した。

年代別の今後最も増やそうと考えている項目は、「一泊旅行」が29歳以下（48.7%）と50代（33.7%）であった。「日帰り旅行」は30代（29.8%）、「二泊以上の旅行」は60歳以上（30.7%）であった。40代は「補助教育費」（35.0%）という結果になった。すべての年代で旅行にかけるお金を増やそうと考えており、40代でも「日帰り旅行」「一泊旅行」（28.5%、25.5%）と答えた人は多かった。

1年前と比べた支出



今後1年間の支出予想



■ 増えた □ 減った ▲ DI

8. 買い物・レジャー等の支出（複数回答）

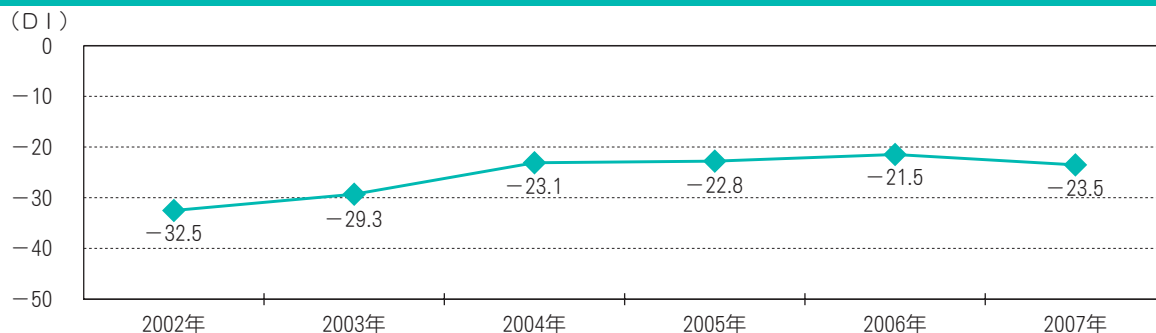
今後の買い物やレジャー支出について「増やす」と答えたのは102人（14.9%）、「減らす」は263人（38.3%）、「考えていない」301人（43.9%）となり、支出DIは△23.5と前回より2.0ポイント低下した。

「減らす」と答えた263人を対象に、その理由をたずねた結果、「世帯の収入が減った」（40.3%）が最も多い。前回よりも増えている項目は、「進学・出産・転居等特別な支出がある」（4.6ポイント上昇）と「ローン負担が重い」（4.8ポイント上昇）であった。逆に減少したのは、「医療費や税金など負担が増えた」（9.9ポイント低下）、と「老後の生活が不安」（8.8ポイント低下）が目立った項目であった。

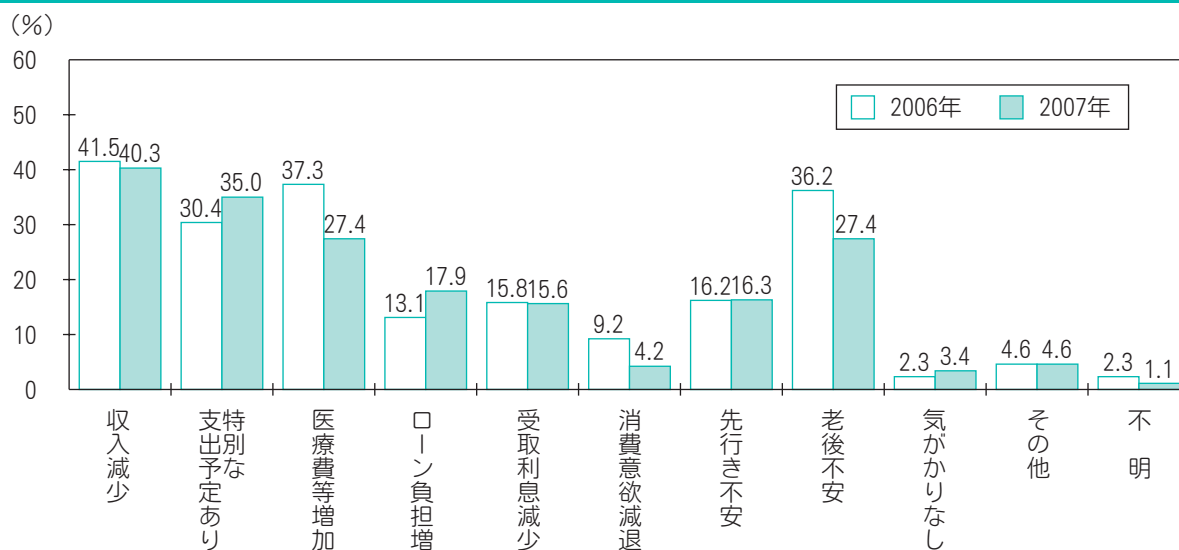
「支出を減らす理由」について、項目別に各年代の特徴を見ると、「世帯の収入が減った」が最も多い年代は、60歳以上（53.8%）次いで50代（43.1%）、30代（36.0%）であった。「進学・出産・転居等特別な支出がある」は40代（61.7%）が最も多く、次は29歳以下（50.0%）であった。「医療費や税金など負担が増えた」は60歳以上（36.5%）が最も多い。「ローン負担が重い」は30代（30.0%）と29歳以下（27.3%）であった。「老後の生活不安」を上げているのは、60歳以上（42.3%）が最も多く、次に50代（30.6%）、40代（23.3%）と続き高齢者ほど不安が大きい。

（奥 桂子）

今後の買い物やレジャーへの支出DI



支出を減らす理由（複数回答）



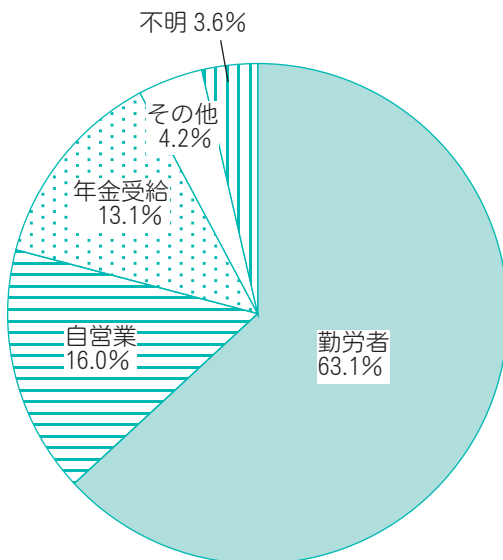
【調査要領】

- (1) 調査場所…… 次に掲げる奈良県下の南都銀行店舗 32 家店
 本店営業部、紀寺、西大寺、西ノ京、平城、学園前、富雄、生駒、東生駒、郡山、筒井、
 天理、天理南、桜井、榛原、大淀、高田、高田本町、馬見、香芝、真美ヶ丘、新庄、御所、
 橿原、神宮前、王寺、西大和、三郷、平群、法隆寺、田原本、五条
- (2) 調査日…… 2007 年 10 月 2 日
- (3) 調査方法…… 上記店頭において無記名で記入
- (4) 調査対象者数 700 人
 うち有効回答者数 686 人
 有効回答率 98.0 %
- (5) 調査対象者の属性

(上段：人、下段：構成比 %)

年 齢	29歳以下	30 代	40 代	50 代	60歳以上	不 明	合 計
未 婚 男 性	9 13.0	10 14.5	8 11.6	22 31.9	14 20.3	6 8.7	69 100.0
未 婚 女 性	4 5.1	7 9.0	13 16.7	36 46.2	16 20.5	2 2.5	78 100.0
既 婚 男 性	8 5.1	39 24.7	28 17.7	37 23.4	42 26.6	4 2.5	158 100.0
既 婚 女 性	17 5.1	72 21.5	88 26.3	93 27.7	64 19.1	1 0.3	335 100.0
不 明	1 2.1	3 6.5	0 0.0	8 17.4	17 37.0	17 37.0	46 100.0
合 計	39 5.7	131 19.1	137 20.0	196 28.6	153 22.3	30 4.3	686 100.0

世帯主の職業



世帯主の配偶者の状況

